

# 第211号

2026年3月21日発行

発行者 日本共産党利島支部  
笹岡 寿一

〒100-0301

東京都利島村850番地

電話 04992-9-0191

Fax 04992-9-0241

メール: to\_sasaoka@yahoo.co.jp

# あしたば

日本共産党利島支部機関紙

<知は力> 豊富な内容と真実を伝える  
「しんぶん赤旗」日曜版をご購読下さい【月990円】

村の政治は村の人々の為に  
あります。皆さんの要望・  
ご意見などお寄せ下さい!

# 国際法ふみにじる暴挙 イラン攻撃 ただちに中止を 日本共産党



トランプ米政権が、イスラエルと共同して、イランにたいする先制攻撃を始めました。イランの最高指導者を殺害し、トランプ大統領はイラン国民に体制転覆を呼びかけていますが、いかなる理由があろうと、独立した主権国家のリーダーを殺害する権利は、世界の誰に対しても与えられていません。

日本共産党は、無法な攻撃の即時中止、交渉による解決に立ち戻ることを強く要求します。

## 高市首相は 米政府に「攻撃中止」を 求めるべきです

攻撃が続けば、中東と世界の平和に深刻な打撃をもたらします。ところが高市首相は、国際法違反のアメリカの行動について一言も批判することができません。アメリカがどんなに無法を重ねても、ただただ黙ってつき従う——あまりにも情けない姿勢ではないでしょうか。

## 「力の支配」に NO!

## みんなで声を あげましょう

イランの反体制デモの弾圧や核開発は許せません。しかし、戦争で問題は解決しません。すでに、小学校がミサイルで破壊されるなど、罪のない子どもや市民200人以上の命が奪われています。

「アメリカ、イスラエルは攻撃をやめよ」「日本政府はアメリカにノーと言うべき」——いまこそ一人ひとりの国民が声をあげ、世界の世論を広げるときです。



# 村長 榎本 寿一

## 議会視聴記



2026年度・第1回定例村議会は、3月9日(月)に開会しました。会期は12日(木)迄の4日間としました。今議会から午後9時の再開は1時半になりました。

11日の午前11時前に2日半足らずで閉会していただきます。新年度の重要な当初議会の実質的な会議時間が僅か2日程です。行政報告と議員の一般質問、議案の内、「住民の皆さんに直接的に関係がある」と思われる事項の要旨をお知らせします。

議案は、専決処分(7年度補正予算案件)1件、7年度各会計補正予算案件7件、条例制定案件6件、改正条例制定案件4件、指定管理者の指定案件1件、規約変更案件1件、8年度各会計予算案件7件です。全て原案通り可決成立しました。

任期満了に伴う選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙が行われました。今回は、議会中継が機器の不具合で最初の部分が視聴できませんでした。

### 3月議会で話し合われた内容です



#### 高齢者スマートフォン普及事業

榎本住民課長「令和7年12月にスマートフォン希望者への無償貸与、端末入替及び操作教室並びに、東京都による高齢者スマートフォン普及事業を実施しました。

村事業では、65歳以上の希望者45名にスマートフォンを貸与

#### 予防接種デジタル化

榎本住民課長「令和10年4月から開始予定の予防接種デジタル化に向け、利島村は厚生労働省の選定を受けて、令和8年6月からの先行実施に向け、現在準備を進めています。

榎本住民課長「令和10年4月から開始予定の予防接種デジタル化に向け、利島村は厚生労働省の選定を受けて、令和8年6月からの先行実施に向け、現在準備を進めています。

#### 白馬ウインター

##### スクールの実施

榎本総務課長「1月3日から7日まで、白馬村において宿泊を伴うスキー・スノーボード教室を実施しました。

参加者は、利島村の3年生から8年生までの児童生徒12名と、檜原村の小学4年生から中学2年生までの32名です。

日頃体験する機会の少ない雪上活動に加え、サマースクールで交流した檜原村の児童生徒との再会を通じ子どもたちの成長を実感できる有意義な事業となりました。

#### 東京都ゼロエミッションポイント事業の実施

榎本住民課長「省エネ性能の高い新品の対象家電等への買い替えにあたって値引きを行う東京都の事業です。

鳥しよ部で家電量販店が無い自治体を対象に大手家電量販店の協力のもと、カタログ販売会を2月2日から13日まで実施しました。本村では、村役場及び社会福祉協議会が窓口となり対応しました。

スマートフォンやタブレットカードの利用に不慣れな高齢者については、社会福祉協議会が

#### 少雨に伴う湯水とその対応状況

上野環境建設課長「昨年12月10日に湯水対策本部を設置して、独立行政法人水資源機構に対し、可搬式浄水装置の貸与について支援を要請しました。

前処理や電力等の付帯設備に係る調整を行った後、可搬式浄水装置を設置し、令和8年1月31日より浄水した水を貯水池へ送水する対応を開始しました。

現在も貯水量がなかなか回復できない状態が続いていますので、皆様におかれましては、引き続き節水のご協力をお願いいたします。

#### ヨコヤマヒメカミキリ 調査報告会

萩野産業観光課長「1月20日(火)東京都主催による「ヨコヤマヒメカミキリ調査報告会」を開催しました。

この調査は、令和4年度から継続して実施されてきたもので、報告会では東京都、および法政大学から調査内容のヨコヤマヒメカミキリの生態、防除対策について専門的な見地から詳細な説明がありました。

説明後に質問時間が設けられ丁寧に答えていました。

### 所信表明

村山村長の所信表明の内容は、村の広報を参照下さい。【せとく】

### 行政報告

行政報告

村事業では、65歳以上の希望者45名にスマートフォンを貸与

榎本住民課長「令和10年4月から開始予定の予防接種デジタル化に向け、利島村は厚生労働省の選定を受けて、令和8年6月からの先行実施に向け、現在準備を進めています。

スマートフォンやタブレットカードの利用に不慣れな高齢者については、社会福祉協議会が

説明後に質問時間が設けられ丁寧に答えていました。



【木村議員】今回募集される地域プロジェクトマネージャーは、特別な「プロの仕事」が期待されているからだと思います。

教育委員会では、どのような目的や役割を期待して外部から、このような人材を募集することにしたのでしょうか。

【三室教育長】地域プロジェクトマネージャーの募集の背景と狙いですが、本村が目指す人の循環と育成を軸とした人づくり、島作りを図るため、校長、及び教育長を専門的な立場から支える人材として組織体制を強化すると云うことで、現在、利島小中学校や教育委員会に於いては日々の教育活動に加えて、これから必要となる能力の育成であるとか、ICTの効果的な活用、探求学習の推進など、次世代を見据えた多様な事業として取り組むことで、利島の子供たちが「この島で育ってよかった」と思えるような教育環境をより迅速に、

より確実に上げていきたいと思っています。



【木村議員】機器の導入の経緯と住民の周知について伺います。

【隅総務課主幹】経緯は、今事業のマネージメントを委託した事業者から、複数の健康アプリの提案がありまして、地域資源との連動と地域限定イベント設定機能と云った地域性の確保、拡張性の高さ、開発運用コストを比較して選定しています。

住民への周知は、アプリの公開に併せてIP告知端末で行っています。

【木村議員】今後、令和8年度に予定している目標として告知されている村内限定イベントとは具体的にどのようなことで、何時から開始する予定ですか？検討されている具体的な案があれば伺います。

また本事業の成果を図る指標値は設定されていますか？現在の登録者数など具体的な進捗と併せて伺います。

【隅総務課主幹】今後の具体的な展望目標に關してですが、アプリ内にチャレンジ機能とスタンプラリー機能と云うのがありまして、それらを活用して村内

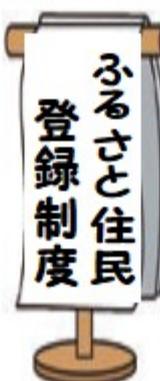
を巡るイベントや一定期間に設定した、数値をクリアするイベント等を予定しています。

【木村議員】アプリを運用することで利島にとって、どのようなメリットを見込んでいるのか伺います。

【榎本総務課長】今後のメリックトに關しては、村民の運動習慣が長く定着することで医療介護費の抑制や外出することで生まれる交流による孤立防止の効果を見込んでいます。

【木村議員】これらの施策は、まず周知することから、持続することが課題になってくるかと思えますが、今後この事業の成果を期待して、引き続き注目していきたいと思っています。

【木村議員】国は、スマホアプリを使って誰もが簡単に登録でき、自治体と直接つながる「ふるさと住民登録制度」を創設することにしました。



この制度は「交流人口、関係人口」を、村の正式なパートナーとして定義するものです。登録者は、村からの情報提供

や活動への参加、サポート施設の利用優待などを受けることができます。

【利島村が掲げる「ずっと計画」】「住所がなくても島に開き、わり続ける」と云う理念をデジタルの力で支えてくれる有効な手段だと考えますが、村はこの制度をどう捉えていますか？

【榎本総務課長】「ふるさと住民登録制度」は、自治体と地域以外の人材をデジタルで直接見つける点において、これまでない可能性を有する制度であると認識しています。

本村に於いても人口減少の中で定住人口のみならず、地域外から支え関わって頂く関係作りから支え関わって頂く関係作りは重要な政策課題であり、関係人口の存在を把握し、継続的な交流参加へとつなげる仕組みは、今後の村政運営において不可欠であると考えています。



【石野議員】椿油産業は利島の象徴であり唯一無二の財産です。

工場の新築見送りは、実の選別機の導入を期待していた生産者を落胆させました。

予算の制約を理由に産業基盤の後回しが続いている印象が現実として生産者にあります。

「産業の主体は生産者」と云う村長は、椿油産業を今後どう守り発展させていく考えなのか伺います。

【萩野産業観光課長】現在の製油センターにつきましては、令和8年度の当初予算において維持修繕費、運営費補助に加えて、建設のあり方の検討の委託の予算を計上しています。

生産者の負担の軽減策としては、苗の育成や伐採事業など幅広く取り組んでいます。

三月一六日に農協が開催した生産者会議での席上で村は、此処の答弁に在る「建設のあり方の検討の委託」とは、新工場を「建設するか、否かをコンサルタントに委託する。建設しないと云う事ではない」と言っていました。出席者からは「コンサルタントに委託して椿油産業の何が分かるのか」と云った疑問視する意見がありました。

私は、これまでの「新工場建設検討委員会」の検討内容は、生産者、農協からの要望はどう認識しているのか述べた上で「コンサルタントに建設する為の知識技術等の相談なら別だが、建設しない為の理由を得るための相談は不要と考える。建設しない為の相談に、一千万円余もの費用を掛けて負担するのは理解できない」と意見を述べました。

【世間】

石野議員「椿林放置林の整備に



整備されている椿林

前向きな対応が必要かと思えます。村として解決策を検討していく予定はあるのか伺います。

荻野産業観光課長「新規の従事希望者には、刈払機、フロアーの購入の補助金がありますので、それを活用して頂けます。

議員は、放置林の整備を求めているのに、行政は相変わらず補助金制度を紹介しています。

補助金制度は、従来からありませんが、放置林は、この間急激に進んで拡大しています。〓〓〓〓



石野議員「高齢者を対象に開始したスマートフォンですが「健康増進と見守りが目的」として貸与状況について説明し

て下さい。

隅総務課主幹「配布当時の対象者は69名です。

実際には、スマートフォンは43台、スマート時計は45台の対応を行っています。

石野議員「健康を図るための具

体策について説明下さい。

隅総務課主幹「健康増進を図るための施策は、アフリ内のチャレンジ機能やスタンラリー機能を活用して、村独自のイベントを開催することで、歩く機会を増やして健康増進を図っていく予定です。

石野議員「募集前に説明をした時にポイント等で頑張った人には褒美を上げるといったことがあったと思います。

それをどのように管理していくのか伺います。

隅総務課主幹「褒美に関してはまだ検討中ですが、チャレンジを達成した方に關しては生活用品を景品としてお渡しするようなどことを考えています。

石野議員「景品の品物が何だというよりも、そのポイントと対象者をどのようにして村が掌握するのかが伺います。

榎本住民課長「議員が懸念されているのは「特定の個人情報」が村の職員とか、他の関係者、或いは住民等に漏れてしまうのではないかと推察します。

この情報は、村で個人情報

管理することはしません。

ただ、保健師については年代別とか性別とかと云った行動変容(禁煙・運動等の健康維持の

現場で、自発的な行動変化を促すために用いられる手法のこと)の追跡調査ではないが、記録する事で、高齢者だけでなく高齢者になってからの健康と云ったところも含めて、健康指導とか、住民検診等の結果を持って医療従事者の方に相談する際に見せて「もつと歩いた方がいいです」と云った指導も受けられると考

えています。

石野議員「見守り機能について具体的に説明下さい。

隅総務課主幹「見守り機能は、スマートフォンを装着していれば激しい転倒事故を検知した後の忘

答がない場合に、事前に登録した緊急連絡先に自動的に通知されます。この通知によって、現場に早急に向かうことが可能となります。

石野議員「激しい転倒」と云うニュアンスですが、心拍に異常があった場合などの見守り機能は無いでしょうか。

榎本住民課長「激しい転倒の範囲とは、どの程度か」と云うのは説明し辛いですが、立ちくらみで、そのまま座り込んでしまったような場合は、中々検知する

のは難しいかと思えます。

そういった場合は、緊急通報のSOS発信と云う別の機能が

あります。自動ではありませんが、SOS発信をして頂くと村の職員が急行できる体制になるのかなと考えています。

石野議員「利島は電波が届かない所が多くあります。

榎本住民課長「以前、島内電波の俯瞰調査を行った結果、集落内では、他の島しょに比べて届かない所は少ない事が出ています。とは云っても「絶対何処でも受信できます」とは、この場で即答はできません。

通信会社にも、今後の状況等も確認させて頂きながら対応していきたいと考えています。

この後、議員からは続けて、電波が届かない地域での対策について質問がありました。

榎本総務課長、村山村長から「費用対効果の関連や衛星通信の技術的問題と併せて費用負担の問題があり難しい」との答弁がありました。〓〓〓〓

石野議員「その他、機能の運用計画があれば説明下さい。

榎本住民課長「その他の活用としては予防接種とか、検診予約や予診票、問診表の入力、健康イ

ベントと連動させる、保健のツ

ル(目的を果たす手法)として

の活用方法や行政手続きの案内、災害情報伝達などを含む情報配信ツールとしての活用を想定しています。

本事業は端末の配布を目的とするのではなく、高齢者の外出促進や社会参加の維持、また見守り体制の強化に加えて総合的な推進をするための基盤整備の事業として実施しているところです。

石野議員「予防接種とか、検診予約表の入力は、スマホを所持していない人には、どのような対応ができるのか伺います。

榎本住民課長「スマートフォンを所持していれば、村から対応したものでなくても出来るように、アプリがインストール出来るようなもので対応しようと考えています。

石野議員「道路の複数箇所で腐食老朽化が進んでいます。整備計画について説明下さい。

前田環境建設主幹「老朽化しているガードレールの更新は必要と認識しています。

現時点では、整備計画は定めていませんが、緊急性や老朽化



が著しい場所から順次補修や交換をして行く考えでいます。

**石野議員**「行政として具体的に危険性があることを分かりつつも、予算執行がなされず、工事が具現化しないのは何故なんでしょうか。」

**前田環境建設主幹**「現在、道路管理業務の中で重点的にカーフミラーの更新を行っています。それが完了した後に、場所によって緊急性を考えながら並行して反射板、手すり、ガードレールも行う方針を取っていきたく考えています。」

**石野議員**「カーフミラーとガードレールの事業が「一緒に出来ない」と云う、そのネックとなっているのは何ですか。予算ですか。仕事量ですか。」

**前田環境建設主幹**「同時に行えない理由としては、予算で云うと元々無いんですが、カーフミラーは事故に対する予防的な設備でして、ガードレールは「事故を起こした後に被害を小さくする」と云う事象的な設備と考えると、事故を未然に防ぐ意味合いでカーフミラーを優先的に対処している所です。」

### 観光案内板

**石野議員**「観光案内板が読みにくくなっていたり、倒れているものがあります。」

整備計画について伺います。**萩野産業観光課長**「南ヶ山線の入り口に傾いている観光案内板については、8年度予算に計上させて頂いています。」

**石野議員**「付け加えると遊歩道の中間地点にある看板も大分苦むっています。」

南ヶ山園地にある各島を案内する趣のある銅板の判読が難しくなっています。検討頂ければと思います。

### 村道の維持管理

**石野議員**「村内では地権者の高齢化が進み、自力での樹木管理が困難な世帯が増えています。」

**前田環境建設主幹**「道路への倒木の対応は原則として土地の所有者の常識において対応頂くものと考えています。村は定期的な道路にはみ出した木などは「所有者の方で伐採管理して下さい」と云う告知をIP告知端末や広報などで行っています。」

一般の方では対処できなくなった木などについては、安全確保のため緊急的に対応する必要があります。村からは事業者委託をして伐採を行っています。土地の所有者が適切に管理をして頂くものと考えています。今後、国や東京都、専門家など

の意見を参考にしながら対応を検討していきたいと思えます。**石野議員**「土手の上から大きな木枝が覆いかぶさっている所が多々見受けられています。」

今後「国や東京都、専門家などの意見を参考にしながら対応を検討していきたい」とのことなので、前向きに検討して頂ければと思います。

**議員指摘のとおり、個人では手に負えない状況にあります。そもそも道路建設に当たっては、周辺の地権者の協力を得たにも拘らず、後になって「木枝の除去は、地権者の常識ある責任」と云うのは抵抗感を覚えます。」**

二二は、都会とは違います。理屈はとも角、道路管理者たる村が対応されたいと思えます。この後、石野議員はオオミズナギドリ(利島で云う「マトリ」)の被害に関する質問がありました。割愛します。 **「世間」**

### チャドクガの駆除

**石野議員**「チャドクガの発生時の駆除に薬剤散布の要請が村民から多く寄せられています。対応を求めます。」

**萩野産業観光課長**「チャドクガの被害は主に集落内です。」

エタシヤク類の薬剤がチャドクガにも有効なので「4月以降にエタシヤク類の調査結果を踏まえて判断したい」と考えています。この後、石野議員からは薬剤の個人への供与や機器の貸し出しについて質問がありました。担当課長は「動力設備は大型で、二人、3人で扱えるものではなく、個人に貸し出しは困難」との説明をしていました。 **「世間」**

### 桧橋付近での雨よけ

**井口議員**「前の議会でも話がありました。その後何の対策もされていません。今後どのように改善していくのか伺います。」

**萩野産業観光課長**「過去の議会でも質問がありましたが、桧橋の根元付近に雨よけなどを作った場合、クレーンなどの大型重機の動きに支障がある為、現実的には難しい状況です。」

**井口議員**「風雨が強い時など乗降客は必ず濡れになります。何とか工夫ができませんか。対策を求めます。」



**萩野産業観光課長**「どう云った対応策があるか。(株)TOSIMAと検討してみます。」

以前の議会では「接岸前と離岸後に、マイクロバス(小人数なら小型車)で、送迎を求める」要望が出されていました。 **「世間」**



### ゴミ焼却場建設

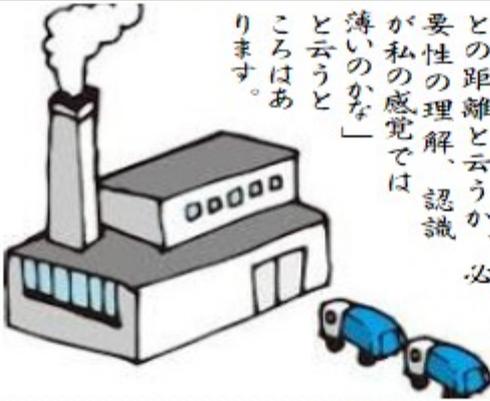
**井口議員**「8年度から本格的に動き出しそうな話がありました。説明を求めます。」

**前田環境建設主幹**「令和8年度に国の交付金の決定を受けた後、住民の生活環境調査のアセスメントを実施します。」

施設建設工事については、本年8年11月から12月頃に入札を行います。令和9年1月頃から9年度末にかけて工事を実施する予定でいます。

**井口議員**「村長と前の議員は

新潟県の離島に視察に行かれて、その時は「焼却場が1億円位で出来るのではないか」と云う話でしたが入札は不調でした。それを受けて、更に予算を上げて入札したところ、再度不調に終わった経緯があります。住民からは「早く作って欲しい」と云った意見が多数あります。どの位のペースで話が進んでいるのか、伺います。



村山村長「指摘のように、現在に至っている点に関しては、住民、議会の皆様には大変申し訳なく、改めて謝罪致します。住民は待ち望んでいる」と云う話ですが「住民の皆様との距離と云うか、必要性の理解、認識が私の感覚では薄いのかな」と云うところがあります。

「1日でも早い整備を進めてきたい」と考えています。井口議員「村長から「住民は関心が薄いのではないか」と云う答弁がありました。私のところには「今の焼却施設が壊れた時はどうするんだ。何時になったら出来るんだ。お前らは議会で話し合いをしたんだろ」と言われています。村山村長「議員の指摘の中で私が「住民が関心がない」と云うところに聞しては、答弁に対する語弊があります。私は「喜ばれる施設ではない」と云う意味合いで申し上げたもので「金額が高くなってしまふことに関心が高い」と云う思いは、当然私も感じています。村長の、この答弁の意味合いは、よく理解できません。」「世間」

住民の皆様は説明を何度かして「一緒になって整備を進めていけたら」と考えています。現在の状況は、事業費が肥大化して難しい状況にあります。

井口議員「8年度に向けての事業概要について伺います。萩野産業観光課長」令和8年度につきましては、レールの交換、本体の点検交換、破れた駐機場テント部分の交換などを予定しています。事業者が発注する部分は、本体の部分とかレールの交換で年4回から6回程度の回数で実施

モノラック事業

高田議員「2年間の通信費補助により見守り機能などの効果が出てくるにも関わらず、貸与期間終了後に通信契約が途切れてしまえば、折角の事業効果が失われてしまいます。すでに通信契約を持っていた高齢者については、配布端末へのSIMカードの移行を行っている」と伺っています。ここには懸念点があります。通信契約や端末購入の仕組みに詳しくない、高齢者の中には費用負担に気づきにくく、想定外の費用負担が2年後等に生じてくる可能性があります。隅総務課長「契約している通信契約のまま、機器を移行することに同意頂いた人に対して、SIMカードの移行を行っている。移行作業の時は個人情報を取り扱います。その契約内容に踏み込まないよう、個人契約

していただきます。駐機場テント交換とか修繕については、島内事業者が発注予定になっています。スマートフォン、スマート時計

を継続してSIMカードの移行された方の中で契約内容に不安のある方は、役場に持ってきて頂く内容を確認することはできるかと考えています。高田議員「2年間の通信補助終了後に通信が切れて、その後見守り機能がなくなってしまうようにフォローを伺います。榎本総務課長」本事業は短年度政策ではなく、高齢者の外出促進や見守り体制の基盤作りも目的としております。そのため、補助終了後も利用が途切れないように、段階的な支援と継続的な利用の働きかけをしていくと考えています。

村役場のトイレ

高田議員「設備の老朽化で臭気や衛生環境が深刻な状態にあると認識しています。衛生環境を含めた職場環境を整うことで職員の定着が進み、良い人材が長く居てくれることが、質の高い住民サービスの向上につながるかと考えます。トイレ設備の老朽化や衛生環

境について現状をどのように認識しているか伺います。榎本総務課長「建設から47年が経過しており、配管換気設備、内装等に経年劣化が進んでいることは認識しています。臭気の発生や衛生面に関しては清掃や応急的な修繕で対応しているものの、設備自体の老朽化に伴う部分があります。職員の職場環境の確保は行政運営の基盤ですし、衛生的な執務環境を維持することは極めて重要な課題と認識しています。

高田議員「役場庁舎、設備全体的な設備改善について、改修予定があるか伺います。榎本総務課長」全体として老朽化が進んでおり、空調設備など順次修繕を行っています。住民生活に直結する施設の優先順位が高いと考えていて、性能面で支障が生じない限り、役場の改修は想定していません。

議案

議案審議の要旨は、次回6月の「あしたば」に記載します。」「世間」

庁舎・設備の改修

議案

議案

議案審議の要旨は、次回6月の「あしたば」に記載します。」「世間」

## 第2回 議会？と住民対話会 (主催が議会なら公務。議員なら私し事)

1月31日(土)1時半・交流会館に於いて議員と住民の対話会が開催され、3時過ぎに終わりました。当日は、加藤議長、高田副議長、石野議員、木村議員の4名と一般住民6名、村山村長、村行政一般職員1名の12名の参加がありました。

テーマは「定住対策」です。

話し合いでは「定住には、仕事があって生活できる環境が必要だ。それには、歴史的な基幹産業である椿油産業の振興は、村の最重要課題として取り組むべきだ」とか「椿林は観光資源としても価値が高い。放置林整備の早期実施は“待ったなし”の状況にある」等の意見が出されていました。

確かにその通りで、放置林は椿油産業の衰退を招くのは勿論の事、観光資源対策としても悪影響を及ぼす事になります。

他には、村の情報の提供を求める要望とか、人口問題では「令和2年の国勢調査時から昨年(2025年)の国勢調査迄の4年間に23名の減少となっている」と話がありました。

情報に関しては「村は広報やタブレットで結構提供している」と云った話もありましたが、後日、私の所に「村長の所信表明は何故公表しないのか」とか「予算案を事前に公表しないのはおかしい」と云った意見が寄せられています。

高田副議長からは「今の利島は都会と殆ど変わらない。棧橋やヘリポート、道路も整備されていて交通の便も確立されている。車や電話も在れば、テレビ等の家電製品もある。水道も村営住宅も社協、保育園も整備されている。こうした状況にあって、やる事が無い」と発言がありました。

副議長が云う「都会と殆ど変わらない」と云うのは、あながち否定出来ませんし、現在に在るものを「ある」と云うのも否定出来ません。

私は「高田副議長の発言は、現在の実態を見ての認識であり、自分も同様に認識できる」と述べた上で「私らが島に帰って来た、今から50数年前は今では想像もつかないような状況にあった。若い人たちは少なく、人口は270名を切るところまで落ち込んでいた。

車や電話、テレビ、洗濯機などの家電製品は在ったが、水道もゴミ焼却施設も保育園、高齢者施設など諸々の施設は無かった」と話しました。

この件に関しては、後の全体会で加藤議長から質問がありました。

私は、高田副議長が云う「やる事が無い」との発言を受けての、私が島に帰ってきて以来の状況とについて、記憶にある限りに於いて述べた内容の主旨を説明しました。その内心では、副議長の「やる事が無い」と云う発言には、考え方が異なる思いを抱いていました。

当日の会場では、発言を控えましたが、副議長が述べた諸々の施設の他にも、林道、農道(現村道)の1本も無ければ、モノラックも南が山園地も貯水池も生簀も合併浄化槽も污水处理施設も子ども遊園地もありませんでした。

棧橋は影も形もなく、船舶への人の乗降や貨物の積み降ろしは舢舨でした。

ちなみに、木造建屋の診療所、学校、製油工場、役場を現在地に新しく建て替えたのは、この時代の事です。体育館と郷土資料館は少し後になります。

制度面では、農漁業用機器の購入費、農産物梱包資材運賃、椿油搾油精製料、稚貝、稚エビ放流費等の事業に対する助成や島外医療受診の際の旅費、結婚祝い金、出産祝い金、奨学金貸付、補聴器購入費等の支援助成制度の創設、行政ヘリコプターによる患者搬送時の添乗医等の報酬に対する個人負担の無償化、社協の法人設立、椿林の更新事業、神新汽船の就航や高速船「としま」の建造と波浮港利島間を毎日一便の就航等々議員としてやる事は限りなくありました。

私たちは、この50年余の間に出来た、多くの公共施設や制度設置の実現のために、時には、住民の皆さんに署名をお願いしたりしてきました。

又、東京都庁や国にも村長と一緒に何回となく陳情に行きました。

その他にも、私しは個人でも施策の実現の為に何回も都庁に行って、共産党都議団と一緒に要望してきました。

他には、年2回だった村議会定例会を4回にするとか、今では考えられませんが、私は、村の条例や規則、要綱の設置と整備を依頼(無償)されて、大島支庁行政係長の協力も得

て、数年かけて成文化して整備した内容を村長や一部の職員に説明する事もしてきました。当時の本庁舎勤務の行政一般職員は、5名程の少人数で常勤特別職員を含めても、10名足らずで頑張っていました。教育長は非常勤でした。その後、数年後して一般職員は10数名に増員されています。終りに、私は議会主催?の対話会に参加して「会の在り方に改革が要される」と感じました。私の他にも前回参加した人も含めて「対話会は意味がない」と云った批判があります。= 寿一

## 議事を視聴して

### 議員全員協議会

現議会は、協議会で「規則に則った議会運営の在り方」と称して、何のことはない、専ら「如何にして質問、質疑時間を短縮するか」に最大の労を費やした感があります。

その功在ってか、年度の当初議会が30案件近い議案審議を含めて、実質僅か2日で閉会しています。

この背景には、現議員たちは協議会での発言内容は「知られたくないのか」と云った印象を抱きます。

議員協議会は「出席者に守秘義務を課したのではなく、協議内容は透明性の向上を図ることが重要であり、会議規則には所要の規定を設ける」としています。

これまでの歴代の議員たちは、この立場を堅持して、協議会に於ける議会運営や村政問題などの話の内容を住民に自由闊達に語り、意見を求めて活動してきています。

現議員に在っては、協議会での内容を積極的に住民に知らせる事に努められたい」と考えます。

「あしたば」208号より、  
抜粋再録・一部加筆編集 寿一

# “自民党農政” もう変えませんか。



野菜をばりばりたべるのが  
だいずきなんです!

「おいしかった」の  
ひとことがなによりですよ。

- 食料自給率 50%の早期回復
- 価格保障と所得補償の充実を
- 担い手を援助し育成する

農業を  
窮地に追い  
込んだ

## 輸入自由化に 日本共産党は一貫して反対

米価下落に道を開いた食糧法の導入にも、唯一反対の論陣をはりました。

日本共産党は、コロナ危機で米価が暴落したとき、国が買い入れて農家を支えよと政府になんども迫りました。米不足では、備蓄米を放出せよといち早く要求してきました。こういう議席こそ、国会に必要なではないでしょうか。

農業つぶしの根本にあるのは、アメリカいなり、大企業の利益優先という自民党政治のゆがみです。そこに正面から切り込める日本共産党の躍進こそ、農業と日本の未来をひらくもっとも確かな力です。



「食と農を守れ」の願いを **日本共産党** に託してください